

## 化学物質審査規制のあり方に関する今後の検討課題(案)

1. サプライチェーンを通じた化学物質管理の重要性と課題

化学物質の適正管理を一層促進するためには、化学物質の製造・輸入段階のみならず、使用段階を含めたサプライチェーン全体で対策を行うことが重要であると考えられるが、化審法においていかに進めるべきか、またどのような課題が存在するか。

2. リスク評価の必要性と効率的実施方法

リスク評価は、ハザード評価と暴露評価を基に、その化学物質のリスクを判定するものであるが、化審法におけるリスク評価はいかにあるべきか、またどのような課題が存在するか。

3. 新規化学物質審査制度等のハザード評価方法のあり方

化審法の新規化学物質審査制度(ハザード評価法)は、国際的動向も踏まえつつ、環境汚染の未然防止を一層図る観点から、どのような問題点や改善点があるか。

4. 既存化学物質の管理

国際的な取り組みとも調和しつつ、既存化学物質等を適切に管理するための我が国の政策はいかにあるべきか。

5. その他

制度の円滑な運用のために改善すべき点等

(参考) 政府における化学物質審査・管理制度に関する最近の主要な検討状況

1. 第3次環境基本計画（平成18年4月7日閣議決定）

重点分野政策プログラムの一つとして化学物質の環境リスクの低減に向けた取組について記載されている。

- ・ 化学物質の有害性・暴露に関する情報を収集し、科学的なリスク評価を推進
- ・ 化学物質のライフサイクルにわたる環境リスクの低減や予防的な取組方法の観点に立った効果的、効率的なリスク管理
- ・ リスクコミュニケーション推進による環境リスクに関する情報への国民の理解と信頼の向上
- ・ 国際的な協調の下での国際的責務の履行と、我が国の経験をいかした積極的な国際貢献

2. 産業構造審議会化学・バイオ部会化学物質政策基本問題小委員会 中間取りまとめ（平成19年3月）

- ・ 2020年目標のための長期的な課題についての検討
- ・ 化学物質のライフサイクルを考慮したリスクベース管理の一層の推進
- ・ 規制と自主管理のベストミックス等
- ・ 蛇口規制（製造・輸入段階）の管理の在り方についての検討
- ・ 各ステイクホルダー（政府、産業界等）が、安全性情報（注）の収集及び提供の充実に向けて連携
- ・ より高い安全性を確保した市場環境の実現
- ・ 国際的制度調和の戦略的な実施
- ・ GHSの関係法令に横断的かつ整合的な形での導入
- ・ アジア地域でのキャパシティ・ビルディングへの更なる貢献

（注）化学物質の安全性情報：ハザードデータ、試験サマリー、一次レポート等）、暴露関連情報（製造・輸入量、用途情報、排出量等）、環境中運命、物理化学的性状を含有した概念として整理）

# 有害性評価、暴露評価及びリスク評価の関係に関する概念図

